

## 平成24年度高山市政クラブ行政視察報告書

### 1. 視察期間

平成24年10月25日（木曜日）

### 2. 視察先

福岡県久留米市 市役所

### 3. 視察目的

久留米方式（かかりつけ医と精神科との連携） 自殺防止対策の実施内容を調査するため

### 4. 視察内容

#### 視察概要

##### ○久留米市の自殺対策概要

うつ症状を呈する患者が初診で受診する場合はほとんどが内科で、専門である精神科や心療内科を受診するケースは10%にも満たないのが現状である。うつ病の初期の症状は身体症状であり、かかりつけ医が初診となるのは当然の流れであるが、日本では精神科に対する偏見や、敷居の高さも影響していることから、かかりつけ医を受診したうつ病患者に、精神科医や心療内科が連携することで自殺防止対策につなげている。

##### ○かかりつけ医と精神科医とのうつ病ネットワークについて

医師会は、久留米市保健所とともに、自殺対策の一環として「かかりつけ医－精神科医うつ病ネットワーク」の構築に取り組んでいる。その目的は、かかりつけ医と精神科医が顔の見える関係作りを行なうことで、うつ病の早期発見、早期治療を目指し、自殺対策の一層の推進を図っている。

##### ○久留米市自殺対策連絡協議会（関係団体との連携）

自殺対策基本法の理念に基づき、自殺は個人の問題ではなく社会全体の問題であると認識し関係する48団体が密接な連携を図ることにより、自殺対策を総合的かつ効果的に推進するために設置された。

##### ○ゲートキーパー養成講座実施計画（市民対象事業）

市民等を対象として自殺対策における知識や技術の提供を行い、自殺のサインを早期に発見し適切な機関につなぐことができる人材（ゲートキーパー）の養成講座を開催している。

##### ○久留米市自殺対策連絡協議会（久留米市庁内の取組）

久留米市における自殺対策を総合的かつ効果的に推進するため、自殺対策に横断的に取り組み庁内部局等の緊密な連携を確保する目的で、久

留米市自殺対策庁内連絡会議を設置している。

○平成24年度自殺対策に係る行政職員研修（市職員の役割）

支援が必要な市民に対して、職員がセーフティネットとしての役割を認識し、市民が発する自殺サインに早期に気づき、適切な対応及び関係機関との連携を図ることができることを目的として職員研修して実施している。

○自殺防止週間街頭キャンペーン（市民に向けての周知活動）

### 高山市の課題

高山市の自殺者（平成22年度）は28名（男性22名・女性6名）であり、久留米市（人口30万人）年間自殺数75人であり人口比較（高山市の人口を30万に換算）すると、高山市は84名となり大変多い。年齢別では、男性55歳から70歳が最も多く、働き盛り・退職年齢であり、自殺原因を調査して自殺防止対策を高山市として推進しなければならない。

## 5. 考察

久留米市は、自殺者を減らすために精神科を敬遠して内科を訪れるうつ病の多さに着目され、精神ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）が内科医を巡回して、「かかりつけ医－精神科医うつ病ネットワーク」を構築し、うつ病の早期発見、早期治療を目指し、1年間で442件のうつ病患者を精神科に紹介するなど成果を上げている。

また 民間の各団体との自殺対策連絡協議会を設置し、自殺防止対策を総合的かつ効果的に推進されている。さらにゲートキーパーを養成され地域等において民間見守りと地域意識を高めるため、街頭キャンペーン等も行われており、久留米市全体で自殺対策に取り組まれていることは、これからの高山市においても大変参考になる視察であった。今後は高山市の取り組みを調査したい。

## 平成24年度高山市政クラブ行政視察報告書

### 1. 視察期間

平成24年10月26日（金曜日）

### 2. 視察先

佐賀県嬉野市塩田町 嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区

### 3. 視察目的

嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区の現状の保存形態と活用を調査するため

### 4. 視察内容（視察概要）

○嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区

嬉野市塩田津伝統的建造物群保存地区は、山沿いの景観・旧街道沿いの景観・川沿いの景観という特徴の異なる3つの景観から構成され、旧街道沿いの景観は、国指定重要文化財の西岡家住宅と国登録有形文化財の杉光陶器店を中心とする重厚な景観と、小規模町家が軒を連ねる景観から成り立っている。

町並みは、度々大火や水害に見舞われた経験から、それに対応した造りへと変化していき、特に寛政元年（1789年）の大火以降は外壁を漆喰で塗り固め、防災措置を講じた「居蔵家（いぐらや）」と呼ばれる瓦葺き大壁造の町家へと建物の構造が替わっていき、文政11年（1828年）に北部九州を襲った台風を主な契機として、有力商家が吹き抜けを多用し、上屋梁を大きくとった大規模な居蔵家を競い合うように建設された。

現存する居蔵家17軒の内、建設年代が江戸期に遡るのは12軒。塩田津における大型の居蔵家は繁栄の象徴であり、保存地区における建築的特色を最もよく表す建物である。室内は座敷、次の間、境の欄間などを豪華にするなど、座敷の意匠に最も力が注がれている。また、川沿いには土蔵や、一階を倉庫とし、二階に座敷を設けた座蔵が建ち並び、これに塩田右工によって造られた仁王像などの石造物と樹木などの環境物件が加わって塩田津固有の歴史的風致が形成されている。

明治から大正期にかけて最盛期を迎えた川港は、輸送形態の変化により、次第にその役割りが縮小された。これに水害への対処として河川改修が行われたことにより、“津”としての歴史に終止符がうたれたが、藩政期に遡る町割や水路などには大きな変化はみられず、町並みの歴史的骨格は、現在まで良好に継承されている。

## 5. 考察

保存地域は、まちなみは良く整備され、また、土産店も少なくとてもいい雰囲気伝わってきた。(町並み保存と土産店のバランスを考慮する必要があると感じた。)

また、保存地域には、「旧検量所」が町並み交流集会所として整備され、来訪者の案内などを活動組織：塩田職人組合、塩田津町並み保存会が運営している。今回の視察に対しても説明などをしていただいた。また、地域のイベントにも積極的に活動されている。

高山市においても各観光施設において拠点を置き、観光客に歴史の説明や保存の取り組みなどのために設置を考慮する必要がある。

## 平成24年度高山市政クラブ行政視察報告書

### 1. 視察期間

平成24年10月26日（金曜日）

### 2. 視察先

佐賀県嬉野市 嬉野市教育委員会

### 3. 視察目的

嬉野市が独自に編さんした中学校向けの副読本「生きる力」の内容やその活用について調査するため。

### 4. 視察内容

子供のいじめについて、先進的な取り組みをしている、福岡県嬉野市。

当市の基本方針は、教育基本法の「人格の完成を目指し、平和で民衆的な国家および社会の形成者として必要な資質を備えた心身共に健康な国民の育成を期して行わなければならない」とある。

このような方針の具体的な取り組みの1つとして、119ページにもわたる副読本「生きる力」を作成し、積極的に授業等に取り入れている。

それらについて、教育委員長の杉崎士郎さんより説明を受けた。

その内容は、正しい知識を身につけ、自己解決力や自己防衛力を培う事が「生きる力」の育成につながるものとしている。

具体的には、3つのカテゴリー「自分自身の心構え」・「主として他者（社会）との関係」・「主として自分を守ること」に分けて編集をされている。

これを使用し月に1回、年間10時間の学習を行い、2学期制の特性を生かして各学校で授業時間を生み出し、効果的な活用を図っている。

### 5. 考察

高山市としてはどのような事を参考に、又、今までの教育要項に組み込めることがあるのか、この副読本の中にもある自分を制御する力や、対処能力を身につけること、正しい知識を身につけ、自己解決力・人生を生き抜く力が生徒の実態に応じた形で指導がなされるといいと感じた。今後は高山市でどのような教育がなされているか調査する必要がある。

## 平成24年度高山市政クラブ行政視察報告書

### 1. 視察期間

平成24年10月27日（土曜日）

### 2. 視察先

長崎県佐世保市 ハウステンボス第一駐車場

### 3. 視察目的

第10回全国和牛能力共進会

全国和牛能力共進会において平成14年と19年に飛騨牛が優秀と認められ、日本一になった。そのおかげで飛騨牛の価格は10年間高値安定となり、地域経済に大いに貢献してきた。

その為、地元の畜産農家は連覇に向けて努力をされてきたが、その努力が他の地域と比べてどうだったか、それを見極め今後の地域振興はどうすべきかを考えていくため。

### 4. 視察内容

9時から第3区若雌の2の審査があり、高山市からは中切町志洞畜産さんの「はなぐに」が出場し、1等6席になった。10時20分からは第7区総合評価群種牛群で、清見町栄学さんの「ももこ」、丹生川町(有)若田ファームさんの「うめ」、荘川町水尻洋一さんの「じゅんちゃん2」、萩原町熊崎光夫さんの「としさくら」の4頭が1チームとして出場し12位になった。高山市はもちろんのこと、飛騨市や下呂市からもたくさん関係者が審査の様子を見に来ていた。

### 5. 考察

9月12日高山市役所駐車場で開催された全共長崎大会出品牛の調教訓練等を見て、しっかり調教されている、これなら立派な成績がとれるだろうと確信を持って全国和牛能力共進会最終比較審査を視察した。

しかし、結果は第8区の若雄後代検定牛群で清見町藤瀬肉牛農場(有)さんの3頭が優等3席に、第9区去勢肥育牛で清見町(有)井田畜産さんの「景鶴6号」が優等3席になったが、日本一にはなれなかった。

百聞は一見にしかずということわざがあるが、共進会を視察して日本一を目指している地域がこんなにたくさんあった事をしみじみ感じると共に今後は飛騨牛のみならず、他の産業振興にも議員の出来る範囲で地元高山市の

為に貢献できるように頑張りたいと思う。

百聞は一見にしかずと書いたが飛騨牛は九州の牛と比較してみるとやや小さい。これは飛騨牛の元祖といわれる「安福号」が少し小さめの体型だったかも知れないが、同じような肉質なら審査員の目には大きい方が有利に写ってしまうのでしょうか。総数で飛騨牛は鹿児島牛の1割もない中での健闘であり、「山椒は小粒でも…」ということわざのように10年間日本一を守り続けた飛騨牛の関係者の方々に感謝をしたいと思う。